

きずな

2013年 3月14日

NO 924

赤旗井原出張所

井原市井原町103 (Tel. 62-6200)

2月25日、井原市議会2月定例会が開会しました。会期は3月18日までの22日間です。一般質問は、2月27日、28日の2日間行われました。森本議員は27日に質問しました。質問と執行部答弁の概要は次のとおりです。

森本ふみお議員の質問の概要

◆教員の精神疾患での休職の実態と対策は

井原市では、精神疾患で休職している教員の病気休職者全体に占める割合はどの程度なのでしょうか。

また、その原因をどう分析され、それに対する対策をどう講じておられるのでしょうか。

◆井原市民病院の待ち時間の更なる改善を

井原市民病院では、まだ「待ち時間が長い」という声を聴きます。各部署での待ち時間の現状はどのようでしょうか。

また、待ち時間の短縮のための対策をこれまで以上に改善すべきではと思いますが、新たな改善策を考えておられますか。

◆福祉事務所に警察官OBを配置すべきではないと考えますが

厚生労働省は、生活保護の「不正受給対策」「暴力団対策」として、国の補助金を使い、福祉事務所に警察官OBの雇用を積極的に検討するよう指示しています。もしこのようなことをすれば、本当に保護が必要な人が窓口相談に行くことさえ萎縮してしまいます。井原市は、福祉事務所に警察官OBを配置しないことを強く求めますが、市は、どのように考えておられますか。

◆2学期制を検証する委員会の設置と今後のスケジュールは

井原市での2学期制に関する検証を委員会を立ち上げて行うことになっていますが、現在までの経過と今後のスケジュールをどう立てておられますか。

◆家庭ごみの排出量増加傾向に対する抜本的な減量対策は

市が指定ごみ袋方式でごみ収集を有料化して3年目になります。『「燃やすごみ」「燃やさないごみ」が2年連続増加した』と、先日新聞報道されました。ごみ有料化を市議会で議論した際に、私は、「一時的には排出量は減るけれども、数年たつと増加してくる」と指摘しました。

このまま推移すると、近い将来有料化実施前の排出量に戻ってしまい市民への負担だけが残る、有料化当初の減量化という目的が崩れてしまうこととなります。そこで増加傾向に対する抜本的な減量対策を講じる必要があると思いますが、その対策をお考えでしょうか。

◆歯科当番医制の充実を

現在、歯科の当番医制は、5月と年末年始の大型連休の時だけとなっています。 **2面左上へ続く**

森本議員の質問に対する執行部答弁の概要

平成19年度から23年度の間で病気休職が8人、その内精神疾患は4人。原因は、責任ある立場で児童生徒の指導に取り組む中で、精神的な余裕が失われてしまった場合や個人的要因から生じるストレスがあげられる。市教委では、県教委が作成した啓発資料を各学校の配布し、教職員の心と体の健康づくりを進めるよう指導・助言している。

平成23年度の外来での診察待ち時間は、30分以内が55%、30分から60分が27%、60分を超えるのが18%となっている。

会計処理の迅速化を図るため、会計窓口の一部業務をシステム化することを検討している。

生活相談窓口等で暴力的な行為や言動などにより、受給を強要するというケースや、暴力団により巧妙な手口での不正受給といった事例はないので、本市においては、警察官OBを福祉事務所に配置することは現時点では考えておりません。



検証委員会は14人で編成。大学教授等学識経験者2人、幼・小・中・高等学校長から4人、小・中教頭会から2人、幼稚園主任教諭代表1人、小・中学校教務主任2人、PTA連合会2人、教職員組合より1人。検証委員会開催時期は、平成25年5月、8月、11月の3回。12月末までには検証の結果を（議会へ）報告したい。

現段階で減少傾向にあると言いながら22年度と比較すると、増加傾向を示しており、家庭ごみ有料化から3年が経過し、市民皆様のごみ分別への意識が薄らぎつつあることがごみ量増加傾向の原因ではないかと思われます。

本年夏ごろまでに新たな「ごみの正しい分け方出し方ガイド」を全世帯に配布する。特に生ごみは水切りで減量すること。小さなごみも捨てずにリサイクルする。ごみを出す際の身近な取り組み方法や、分別の徹底など内容の充実を図る。本年3月から今まで燃やさないごみとして集積所に出していた、家庭で不要になった携帯電話やデジタルカメラなど使用済み小型家電を本庁舎及び各支所の回収ボックスで回収し、ごみの減量化資源化に努める。

本市は、5月の大型連休及び年末年始の時期に4連休以上になる場合、井原市歯科医師会のご協力により、休日等歯科診療当番医制 **2面右上へ続く**

1面左下よりつづく

通常の日曜日に、耐えられない程の痛みに襲われ、受診したくても井原市内で受診できず、福山まで行って受診したというケースを聞きます。

歯科医師会とも協議していただき、医科の当番医制のように、通年で日曜、祭日の当番医制を実施していただけないでしょうか。

◆公共施設でアスベスト使用箇所は皆無でしょうか

先般、倉敷市が公共施設でのアスベスト使用の詳細調査をした結果、使用箇所が発見されたと新聞報道されていました。

井原市では、これまでに調査をして使用箇所があれば除去の作業を行ってきました。ただ、倉敷市のように、詳細に調査をすることによって使用箇所が発見されることがあります。

井原市では、公共施設でアスベスト使用箇所は皆無でしょうか。

1面右下よりつづく

を平成14年度から実施している。本年度は9日間で30名の方が利用されている。

現状、本市の休日歯科診療の利用者は、連休中にあっても一日平均3.3名、通年実施にあたっては歯科医師会の理解と協力が不可欠ですが、少ない利用状況の中での実施は医療機関にも大きな負担をかけることも想定されます。

また、歯科医師会からは、休日診療に参加できる医師数が少ないこと、利用者が少ないことから経費面の負担が大きいなどの課題もお聞きしており、現段階での実施は困難と考えている。

市内のアスベストの使用状況は、415公共施設のうち15か所が疑われ、アスベストの含有率調査を専門家に依頼した結果、中部水源池ポンプ棟のポンプ室の天井と内壁にアスベストが26.7%、B&G美星海洋センター体育館の器具庫の屋根材として裏打ち断熱材に9.2%含まれていた。これら2箇所については平成17年11月に国の指示による除去改修措置を完了した。したがって、市内の公共施設のアスベスト使用は皆無です。

2月25日、井原市議会2月定例会が開会しました。会期は3月18日までの22日間です。25日の開会日、瀧本市長が議案の提案説明に先立ち、新年度の市政運営の基本方針を話しました。その内容を先々週、先週に続いてお知らせします。

My 意識でみんながつくるまちづくり

協働のまちづくり 井原市パートナーシップ・プロジェクト事業では、協働のまちづくりの推進母体となります「地区まちづくり協議会」の組織化が進み、パートナーシップ推進員と連携しながら地域課題の解決策や地域振興のあり方等について検討いただいております。また、県内外の先進事例の視察や研修会を開催するなど、基盤づくりが着実に進展しているところであります。

こうした中、25年度からは協議会等で検討した課題解決や地域振興の方策等を地区住民の目標として共有するため、「地区まちづくり計画」を策定いただくなど、具体的な「まちづくり事業」が動き出す重要な年であると考えております。

このため、協議会等の運営補助に加え、「まちづくり事業」に対する財政的支援制度として「がんばる地域応援補助金」を新設することとしております。

男女共同参画の推進 「第3次いばら男女共同参画プラン」に掲げる施策及び事業を着実に推進し、男女平等の意識づくりや男女がゆとりを持って働ける環境づくりなど、男女共同参画社会の形成を目指してまいります。また、「井原市DV防止及び被害者支援計画」に基づき、DVの発生防止や被害者支援対策を推進してまいります。

国際交流の推進 次代を担う子供たちに国際感覚を養う機会を提供し国際化時代に対応できる人材の育成を進めるほか、市民主体の国際交流の活性化を図ってまいります。また、外国人へのコミュニケーション支援や生活支援など、引き続き多文化共生社会の推進に努めることとし、25年度は、「外国人のためのくらしの便利帳」を作成することとしております。

電子市役所の構築 ICTが急速に進展する中、行政においてもこれを有効に活用することが求められております。こうした中、業務機器の安定稼働と経費の削減を図るため、引き続き機器設備の再編を進めるほか、事務処理の効率化のため、新財務会計システムを導入することとしております。

今後も行政内部の効率・高度化を進め、質の高い行政サービスを提供できるよう推進してまいります。

以上、平成25年度における予算編成及び主要施策についてご説明申し上げましたが、いずれにいたしましても、市民対話型の行政運営に努めてまいりますので、議員各位並びに市民皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

この「きずな」は森本ふみお議員のブログ (<http://jcp-seibu.sakura.ne.jp/morimoto/>) でも見れます

生活に役立ち勇気と確信のわくしんぶん[赤旗]をお読みください(月額日刊紙2,900円日曜版800円)